

照屋清之介<sup>1</sup>・加藤直宏<sup>2</sup>：沖縄本島南部におけるイトカケガイ科2種の打上記録

Shinnosuke TERUYA<sup>1</sup> and Naohiro KATOH<sup>2</sup>：Stranding record of two species of Epitoniidae in the southern Okinawa Island

沖縄本島におけるイトカケガイ科の最初のまとまった報告は、黒田（1960）によるもので、19種が報告された。その後、名和（2011）や中山（2013a, b）により沖縄本島のイトカケガイ科について複数種のまとまった報告がある。これまで、未記載種を除くと約40種のイトカケガイ科の貝類が沖縄本島から確認されている（久保 1991, 2000；沖縄県立博物館 1992；久保・黒住 1995；Nakayama 2000, 2003；土田 2000；黒住他 2003；池辺・前岩 2015）。著者らは、沖縄本島南部西原町において貝類の打上採集を行い、生貝の確実な確認例としては国内初記録と考えられるクルイトカケ *Cycloscala hyalina* (Sowerby, 1844) と、沖縄本島から初記録となるラセンオリレイトカケ *Cirsotrema (Cirsotrema) amamiense* Nakayama, 2000 の2種を確認したため報告する。検討に用いた標本は、東京大学総合研究博物館に保管した。

沖縄県西原市の西原マリパーク内の人工海浜であるきらきらビーチにおいて採集を行った。採集地は、他海域由来の砂を養浜しており、現地性ではない貝が含まれている。そのため、採集された貝が現地性もしくは、他海域由来であるのか判別する必要がある。採砂海域および養浜記録について沖縄県土木建築部に問い合わせたところ、採砂海域は慶良間諸島のチービス沖の可能性が高く、養浜記録は今回の採集の2014年12月より前の直近では2014年5月に行われたことがわかった。

*Cycloscala hyalina* (Sowerby, 1844) クルイトカケ (図1)

採集状況 2014年12月22日、沖縄県西原市のきらきらビーチの満潮線上で加藤により打ち上げ採集された。

特徴 殻長5.2mm、殻幅3.6mmで、殻は薄質で白色である。殻口部が完成しておらず、亜成貝と思われる。次体層から殻頂部にかけて軟体部が残っており、採集直後は赤味がかかった軟体部が透けて観察されたが、無水エタノールで固定後、黄色になった。殻頂部は大きく、茶褐色の線が入る。体層には7つの縦肋があり、螺層はそれぞれ離れている。

備考 本種の生息状況は、原記載である Sowerby (1844) においてフィリピンのルソン島、水深約15~20mの砂泥底域に生息すると記されている。近年のクルイトカケの国内における確認記録は、生貝の報告は殆ど無く、打上やドレッジ採集において死殻が採集されることが多い（黒住他 2003；池辺・吉田 2006；Sasaki 2008；池辺 2010）。今回、本種の生貝の確実な記録としては国内初報告になると思われる。

人工海浜であるため他海域由来の可能性を検討しなければならない。養浜の砂は、他海域から採砂された後に、一定期間、陸上にあげられることが多いため、生貝は殆ど残らないと考えられる。さらに、採集日の直近で養浜が行われたのは7ヶ月前であり、採集されるまでの間、波打ち際で生存し続けていたとは考えづらい。したがって、今回採集されたクルイトカケは、養浜砂由来ではなく、目の前の海域に由来するものであると考えられる。

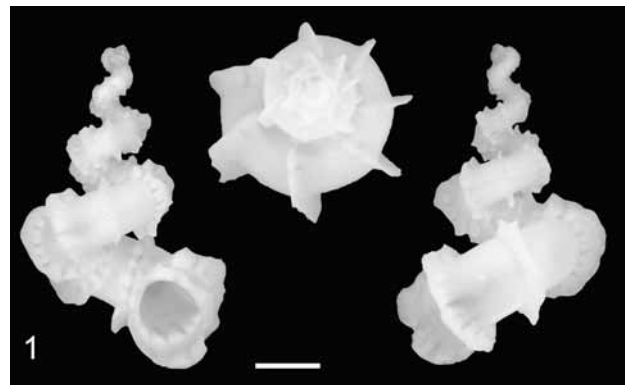


図1 軟体部の残存したクルイトカケ *Cycloscala hyalina* (Sowerby, 1844)。スケールは1mm。

*Cirsotrema (Cirsotrema) amamiense* Nakayama, 2000 ラセンオリレイトカケ (図2)

採集状況 2015年3月9日、沖縄県西原市のきらきらビーチの満潮線上で照屋により打ち上げ採集された。

特徴 殻長4.4mm、殻幅3.3mm、殻は厚質で、白色である。縫合直下は角張るが、全体的に摩耗しており、一部の肩部では欠損が見られる。体層下部には、刻点が続く。軟体部は消失している。

**備考** ホロタイプである奄美大島の個体は殻長9.1mm, 殻幅6.3mmであるため (Nakayama 2000), 本種としては小型個体と思われる。本個体は全体的に摩耗しており, 一部欠損している。養浜砂由来と思われる他の貝類も同様に摩耗, 欠損しており, 貝殻の状態からラセンオリレイトカケは養浜砂由来であると考えるのが妥当である。本種の分布は, 奄美大島および紀伊半島から知られているが (Nakayama 2000, 2003), 沖縄本島近海からの報告は初めてである。

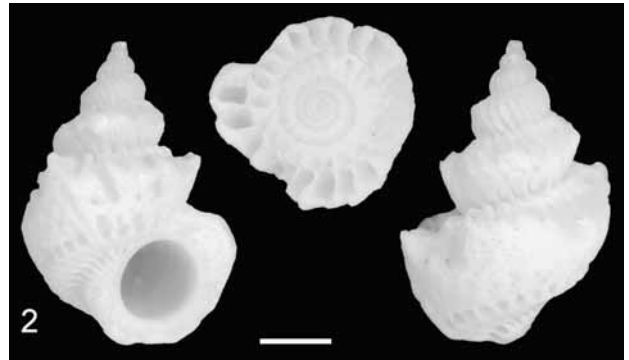


図2 ラセンオリレイトカケ *Cirсотrema* (*Cirсотrema*) *amamiense* Nakayama, 2000. スケールは1 mm.

**謝辞**：西原市のきらきらビーチの採砂海域および養浜記録をご教示頂きました沖縄県土木建築部に感謝の意を表します。

### 引用文献

- 圓池辺進一. 2010. 沖縄県竹富町・鳩間島の貝. *かたをなみ*, 6: 10-12.
- 池辺進一・前岩崇. 2015. 沖縄県名護市吉瀬の貝類. *かたをなみ*, 10: 11-13.
- 池辺進一・吉田誠. 2006. 池辺進一コレクション 貝類標本目録. 164pp. 和歌山県立自然史博物館, 和歌山.
- 久保弘文. 1991. 中城海域の貝類. *中城村史第2巻資料編*. pp.186-196. 中城村役場, 中城.
- 久保弘文. 2000. 宜野湾市の貝類. *宜野湾市誌 第9巻 資料編8 自然*. 宜野湾市教育委員会文化課, 宜野湾.
- 久保弘文・黒住耐二. 1995. 沖縄の海の貝・陸の貝. 263pp. 沖縄出版, 浦添.
- 黒住耐二・大須賀健・石川裕・竹之内孝一・宮城弘樹・村山望. 2003. 沖縄島北東岸のサンゴ礁性貝類相の現状調査. *プロ・ナトゥーラ・ファン* 助成成果報告書, 12: 17-31.
- 黒田徳米. 1960. 沖縄産貝類目録. 104pp. 琉球大学教務部普及課, 那覇.
- Nakayama, T. 2000. Descriptions of a new subgenus, fourteen new species, and three substituted names of Epitoniids from Japan (Gastropoda: Epitoniidae). *Venus*, 59(4): 277-292.
- Nakayama, T. 2003. A review of Northwest Pacific epitoniids (Gastropoda: Epitoniidae). 143pp. Backhuys Publishers, Leiden.
- 中山大成. 2013a. 紀伊半島, 沖縄, およびタヒチから採取されたイトカケガイ科について. *ちりぼたん*, 42(1-4): 11-15.
- 中山大成. 2013b. 沖縄から採取された日本産新記録のイトカケガイ科の5種について. *ちりぼたん*, 42(1-4): 16-21.
- 名和純. 2011. 琉球大学資料館(風樹館)多板綱・腹足綱・掘足綱・頭足綱標本目録. 253pp. 琉球大学資料館(風樹館), 西原.
- 沖縄県立博物館. 1992. 仲嶺俊子貝類コレクション標本目録. vi+296pp. 沖縄県立博物館, 那覇.
- Sasaki, T. 2008. Micromolluscs in Japan: taxonomic composition, habitats, and future topics. *Zoosymposia*. 1: 147-232.
- Sowerby, G.B. (II). 1844. Descriptions of new species of *Scalaria*, collected by Mr. H. Cuming, to be figured in the fourth part of *Thesaurus Conchyliorum*. *Proceedings of the Zoological Society of London*. 12: 10-31.
- 土田英治. 2000. イトカケガイ科. In 奥谷喬司(編著) *日本近海産貝類図鑑*. pp. 320-343. 東海大学出版会, 東京.

(Received Sept. 1, 2015; accepted Oct. 23, 2015)

<sup>1</sup> 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科

<sup>1</sup> Department of Earth and Planetary Sciences, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

<sup>2</sup> 〒902-0066 沖縄県那覇市大道52-301

<sup>2</sup> 52-301 Daido, Naha, Okinawa 902-0066, Japan